

## 生涯学習に関する基礎調査報告書（概要版）

【調査目的】本調査は、区民の日頃の学習活動や地域での活動状況、学びに関わるニーズ、社会教育関係団体における活動実態等を把握するため、区民と社会教育関係団体を対象にしたアンケート調査を実施しました。

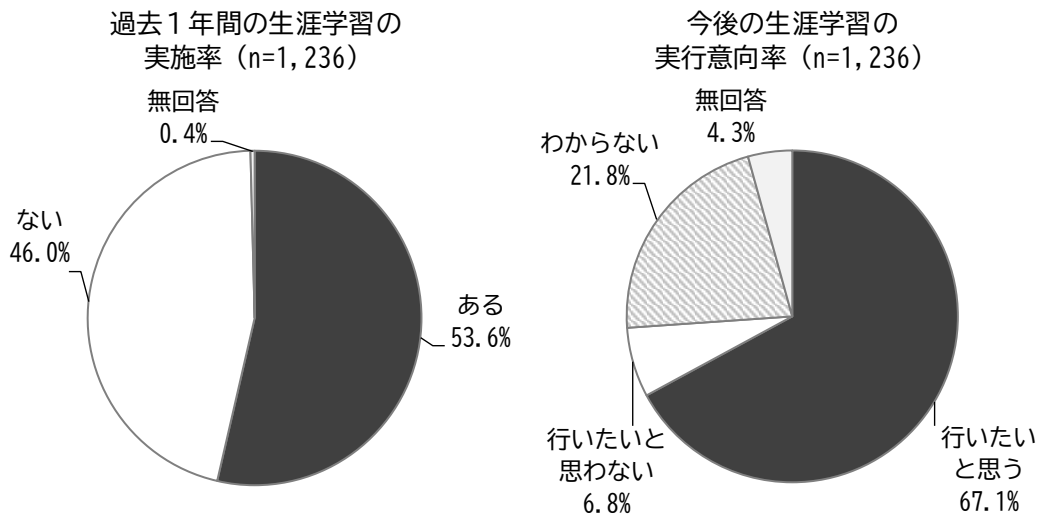
	区民アンケート調査	社会教育関係団体アンケート調査
調査対象	大田区在住の満18歳以上の区民	区に登録している社会教育関係団体
抽出方法	住民基本台帳からの層化無作為抽出	全数※
調査方法	郵送による配布・回収、WEB回収併用	郵送による配布・回収、WEB回収併用
配布数	3,000名	1,948団体
有効回収数	1,236名（郵送：585名、WEB：651名）	1,382団体 （郵送：910団体、WEB：472団体）
有効回収率	41.2%	70.9%
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学ぶことの意識について</li> <li>○生涯学習について</li> <li>○普段の生活について</li> <li>○大田区の生涯学習施策・事業について</li> <li>○回答者情報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○団体全般について</li> <li>○団体の活動内容について</li> <li>○大田区の生涯学習施策・事業について</li> </ul>
調査期間	令和7年（2025年）10月1日～10月31日	

※社会教育関係団体アンケート調査は、令和7年（2025年）3月末時点で更新が済んでおり、令和7年8月1日時点で解散していた団体を除いた社会教育関係団体全数を対象としています。

### 区民アンケート調査結果

#### 最近1年間における生涯学習の実施状況と今後の実施意向

○過去1年間の生涯学習の実施率は53.6%、今後の生涯学習の実行意向率は67.1%であり、実施と意向との間に13.5ポイントの差異が見られます。また、できない理由として「時間的制約」「きっかけ不足」「情報不足」「経済的制約」が上位に挙げられています。



### 最近1年間における生涯学習の実施状況（クロス集計結果）

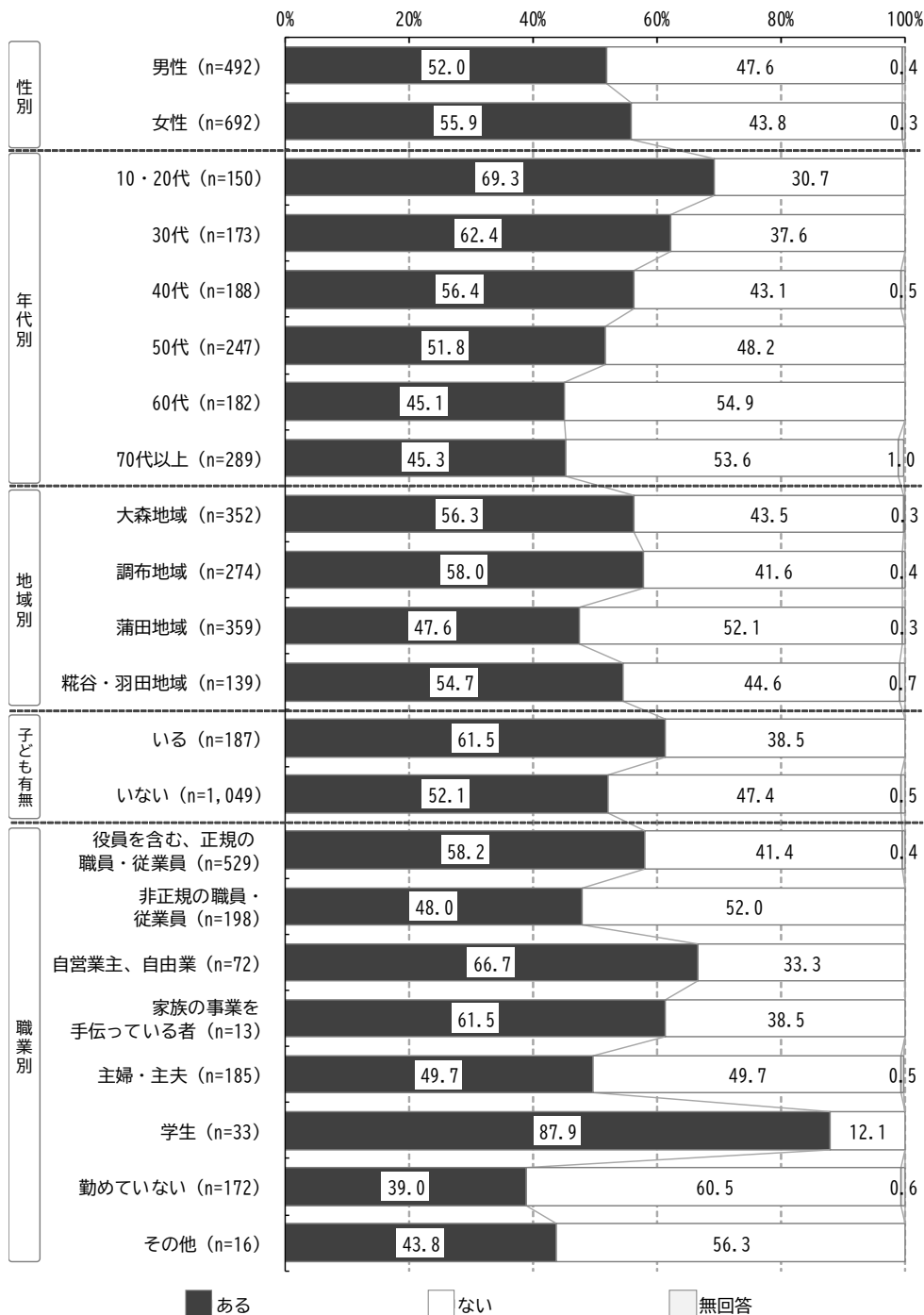
○性別では、「女性」で「ある」が55.9%、「男性」が52.0%となっています。

○年代別では、「10・20代」（69.3%）で「ある」が最も高く、若年層ほど「ある」の割合が高くなっています。

○地域別では、「調布地域」（58.0%）で「ある」が最も高くなっています。

○子ども有無別では、「いる」が「いない」よりも「ある」は9.4ポイント高くなっています。

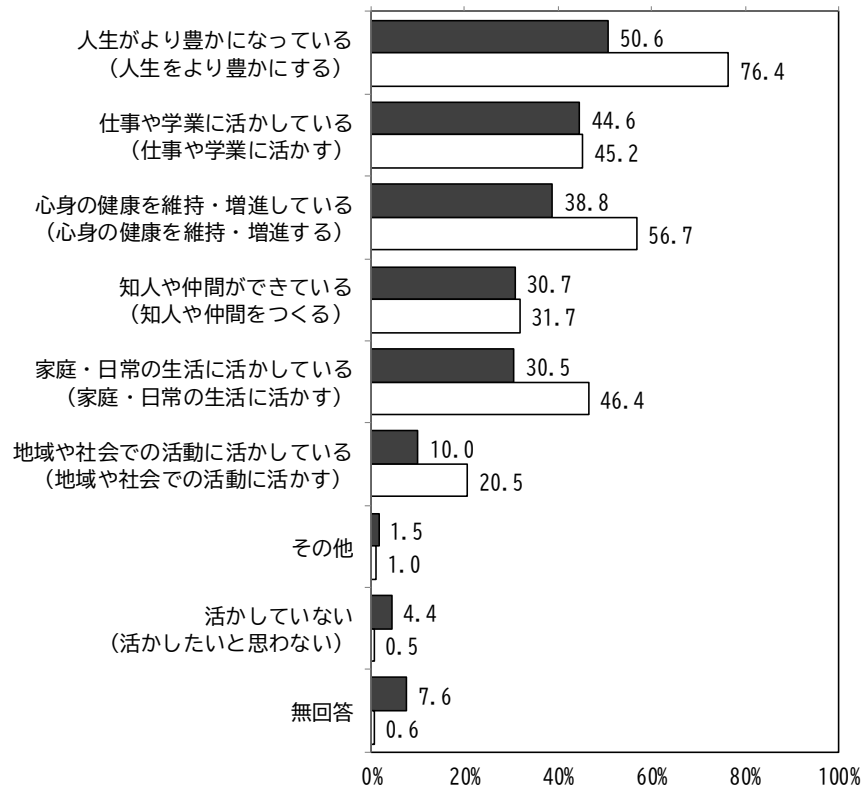
○職業別では、「学生」（87.9%）で「ある」が最も高く、次いで、「自分で、または共同で事業を営んでいる自営業主、自由業」（66.7%）、「役員を含む、正規の職員・従業員」（58.2%）となっています。



## 生涯学習を通じて身に付けた知識・技能・経験の現状での活かし方、今後の意向

○生涯学習を通じて身に付けた知識・技能・経験の現状での活かし方は、「人生がより豊かになっている」(50.6%)、「仕事や学業に活かしている」(44.6%)、「心身の健康を維持・増進している」(38.8%)が上位を占め、「地域や社会での活動に活かしている」は10.0%にとどまります。

○今後の意向についても「人生をより豊かにする」(76.4%)や「心身の健康を維持・増進する」(56.7%)が高くなっていますが、「地域や社会での活動に活かす」(20.5%)も現状に比べて約10ポイント高くなっています。



※現状での活かし方の降順で並び替え。

■ 現状での活かし方 (n=662) □ 今後の意向 (n=829)

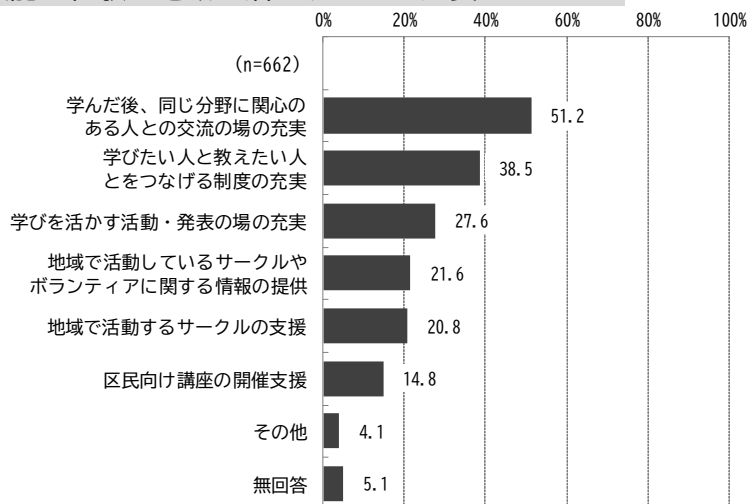
※現状での活かし方は、最近1年間に生涯学習を行ったことが「ある」人 (n=662) が対象。

※今後の意向は、今後の生涯学習を「行いたい」と回答した人 (n=829) が対象。

## 生涯学習を通じて身に付けた知識・技能・経験を地域で活かすために必要なサポート

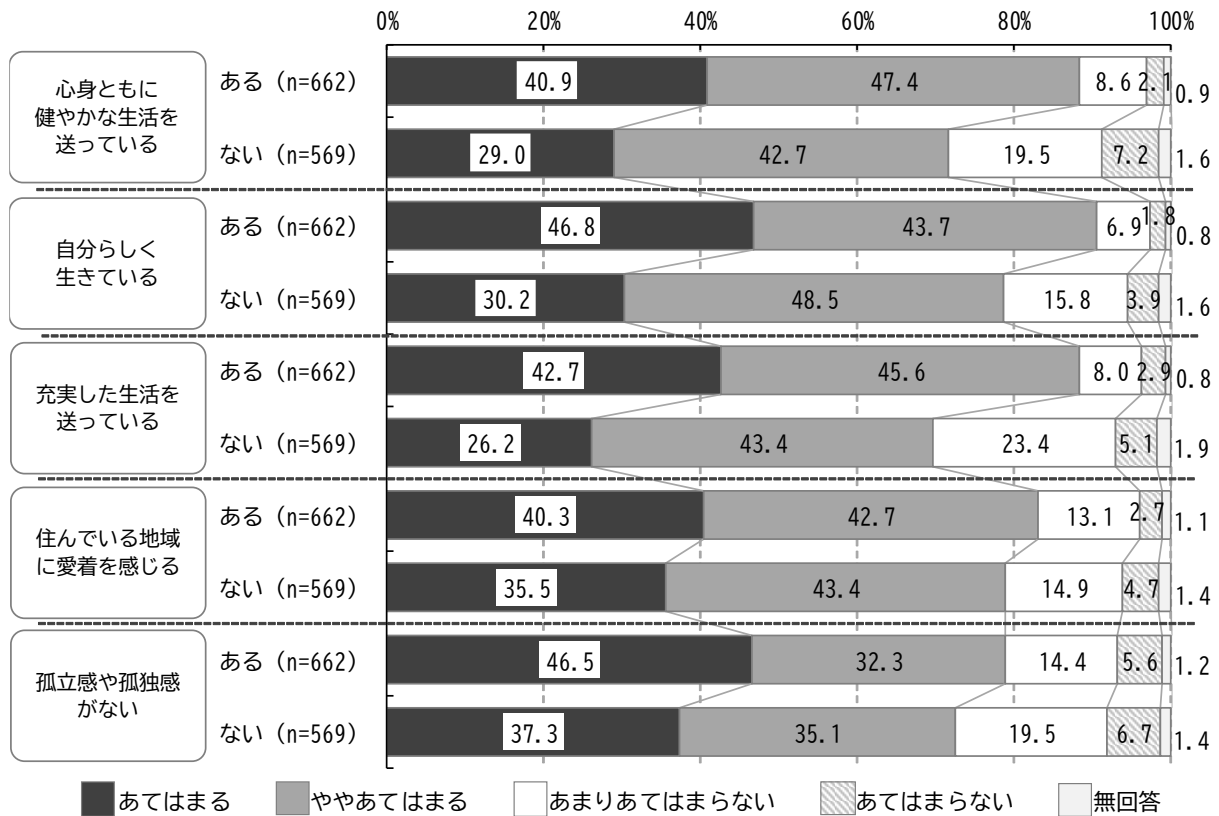
○生涯学習を通じて身に付けた知識・技能・経験を、地域で活かすために必要なサポートとしては、「学んだ後、同じ分野に関心のある人との交流の場の充実」(51.2%)が最も高く、次いで「学びたい人と教えたい人とをつなげる制度の充実」(38.5%)、「学びを活かす活動・発表の場の充実」(27.6%)となっています。

※最近1年間に生涯学習を行ったことが「ある」人 (n=662) が対象。



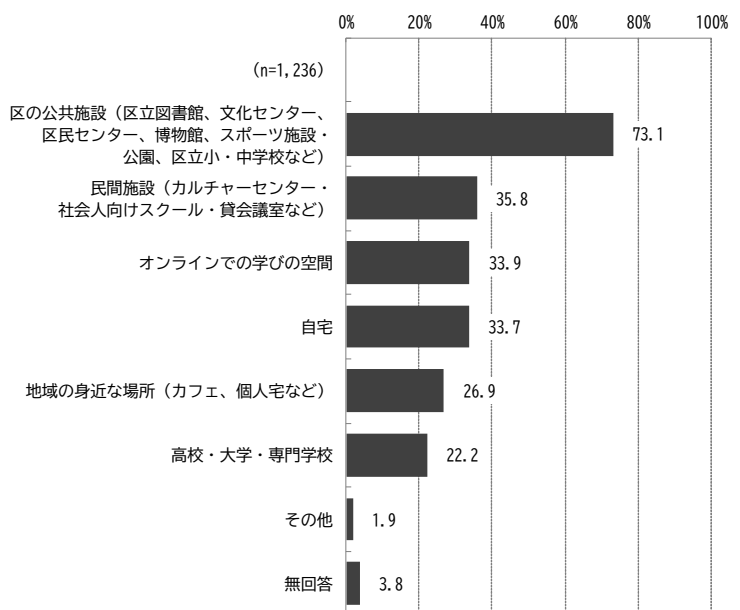
## 普段の生活での意識

○普段の生活での意識について、最近1年間における生涯学習の実施状況別では、5項目全てにおいて「ある」の方が「ない」よりも「肯定的評価」（「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計）が高くなっています。



## 生涯学習をするうえで重要だと思う場所

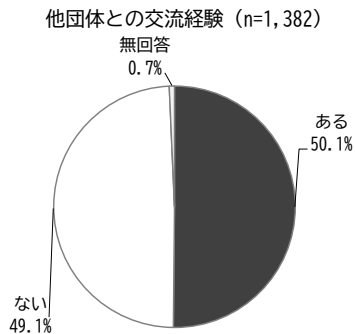
○生涯学習をするうえで重要だと思う場所について、「区の公共施設（区立図書館、文化センター、区民センター、博物館、スポーツ施設・公園、区立小・中学校など）」(73.1%) が最も高く、次いで「民間施設（カルチャーセンター・社会人向けスクール・貸会議室など）」(35.8%)、「オンラインでの学びの空間」(33.9%)、「自宅」(33.7%) となっています。



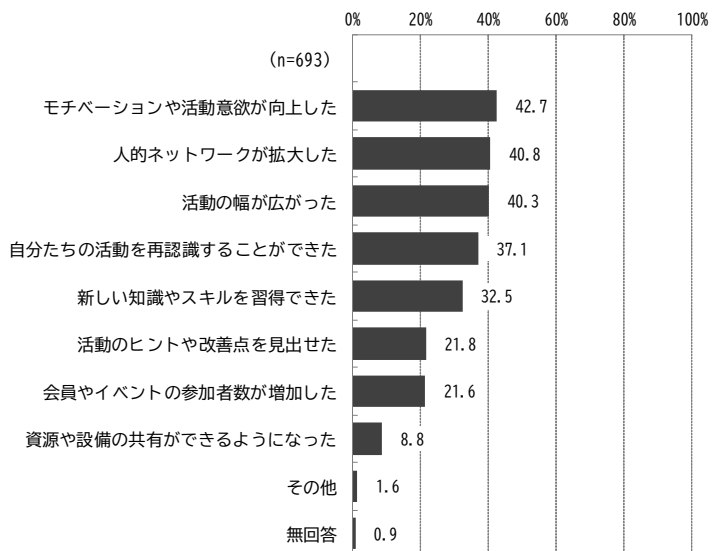
# 社会教育関係団体アンケート調査結果

## 他団体との交流経験、交流による効果、交流したことがない理由

○地域の他団体（他の社会教育関係団体、商店街、企業、学校等）と交流した経験は、「ある」が50.1%、「ない」が49.1%となっています。



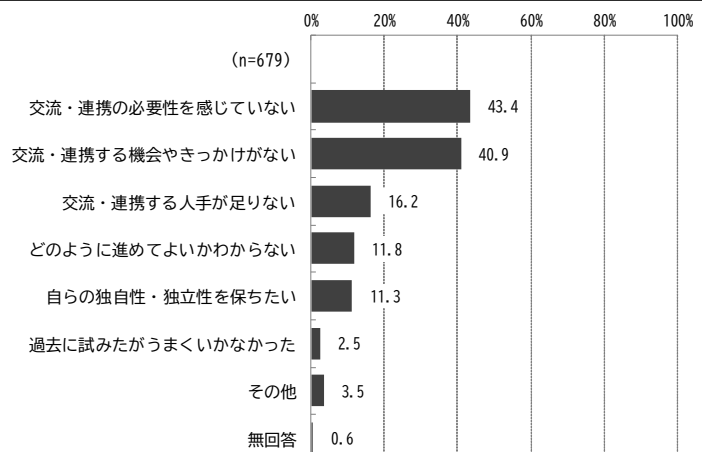
○地域の他団体との交流経験が「ある」と回答した方に、どのようなよい効果を得られたかをきいたところ、「モチベーションや活動意欲が向上した」(42.7%)が最も高く、次いで「人的ネットワークが拡大した」(40.8%)、「活動の幅が広がった」(40.3%)、「自分たちの活動を再認識することができた」(37.1%)となっています。



※地域の他団体との交流経験が「ある」と回答した団体 (n=693) が対象。

○地域の他団体との交流経験が「ない」と回答した方に、交流・連携したことがない理由をきいたところ、「交流・連携の必要性を感じていない」(43.4%)が最も高く、次いで「交流・連携する機会やきっかけがない」(40.9%)となっています。

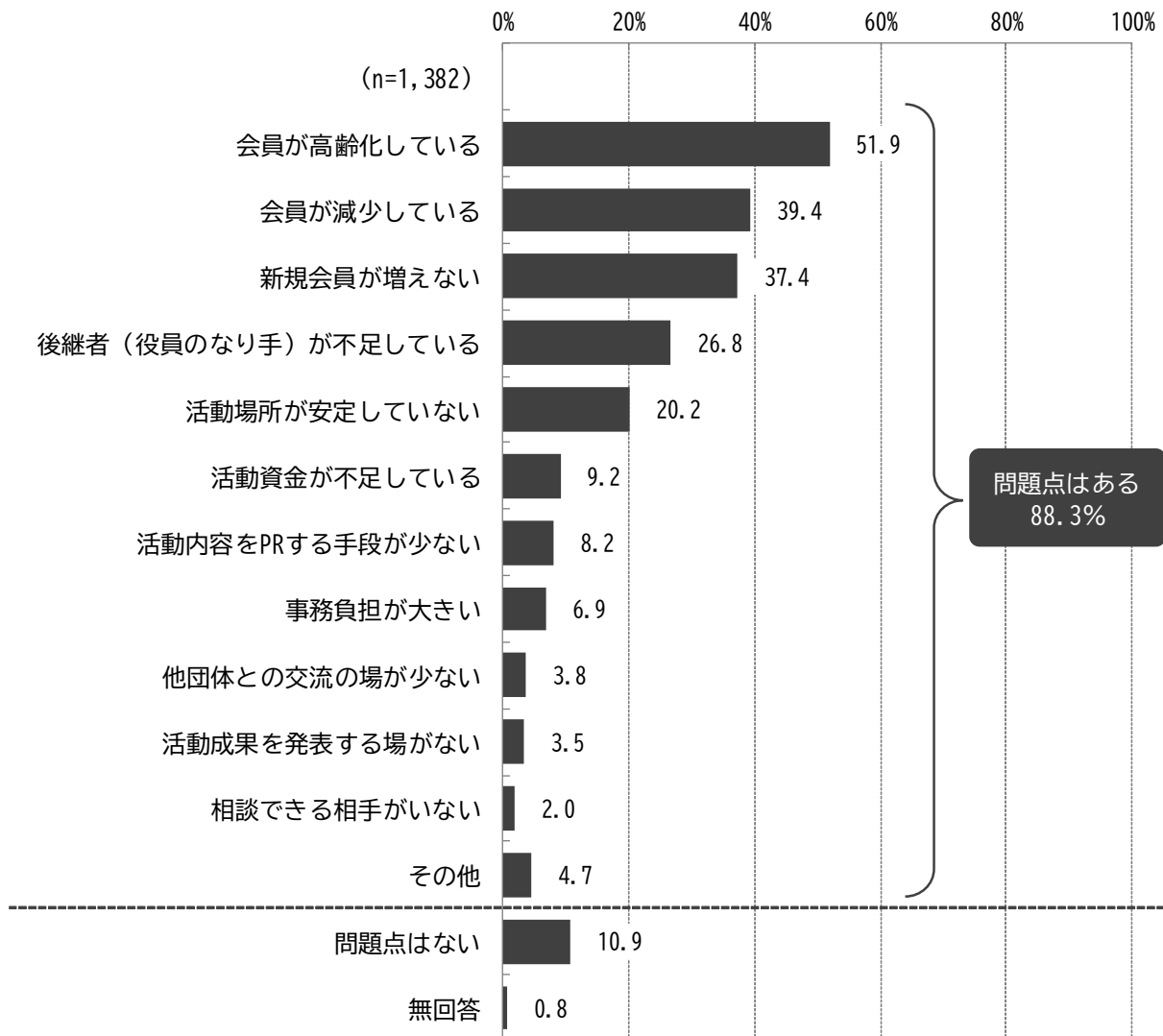
※地域の他団体との交流経験が「ない」と回答した団体 (n=679) が対象。



### 今後、活動を継続していく際の問題点

○活動を継続していく際の問題点について、「問題点はある」が88.3%、「問題点はない」が10.9%となっています。

○また、「問題点はある」の中では、「会員が高齢化している」(51.9%)が最も高く、次いで「会員が減少している」(39.4%)、「新規会員が増えない」(37.4%)、「後継者(役員のなり手)が不足している」(26.8%)、「活動場所が安定していない」(20.2%)となっています。



※問題点はある (%) = 100 - (「問題点はない」 + 「無回答」)

○会員数規模別では、「1～9人」から「20～29人」で「会員が高齢化している」、「30～49人」「50人以上」で「後継者（役員のなり手）が不足している」が最も高くなっています。

○活動年数別では、「5年未満」で「活動場所が安定していない」、「5～10年未満」から「25年以上」で「会員が高齢化している」が最も高くなっています。

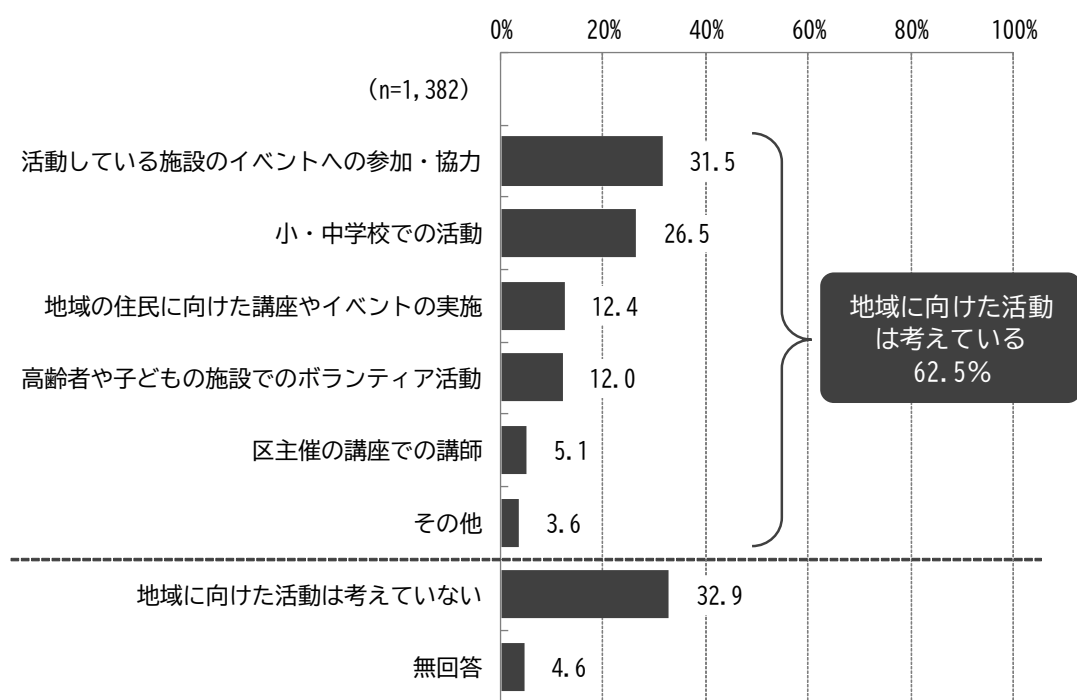
		n	会員が高齢化している	会員が減少している	新規会員が増えない	後継者（役員のなり手）が不足している	活動場所が安定していない
会員数規模別	1～9人	337	60.2	51.0	45.1	17.5	12.2
	10～19人	586	52.9	37.7	37.0	25.4	20.0
	20～29人	223	52.9	29.6	33.2	33.6	26.5
	30～49人	115	35.7	36.5	32.2	37.4	27.0
	50人以上	109	34.9	37.6	33.0	40.4	25.7
活動年数別	5年未満	158	19.0	11.4	21.5	15.8	27.2
	5～10年未満	156	35.3	26.9	30.8	17.3	24.4
	10～15年未満	147	57.1	44.9	39.5	25.2	20.4
	15～20年未満	160	56.9	41.3	37.5	28.8	14.4
	20～25年未満	151	57.0	43.0	36.4	33.1	20.5
	25年以上	595	60.7	47.4	43.0	30.8	18.8

※全体の上位5位までを表として整理。

### 今後、行っていきたい地域活動

○今後、行っていきたい地域活動について、「地域に向けた活動は考えている」が62.5%、「地域に向けた活動は考えていない」が32.9%となっています。

○また、「地域に向けた活動は考えている」の中では、「活動している施設のイベントへの参加・協力」(31.5%)が最も高く、次いで「小・中学校での活動」(26.5%)となっています。



※地域に向けた活動は考えている (%) = 100 - (「地域に向けた活動は考えていない」 + 「無回答」)

## 団体ヒアリング調査結果

【調査目的】 社会教育関係団体を対象としたアンケート調査結果について、より詳細に回答内容を把握するとともに、関連団体の活動実態等をより詳細に把握するため、社会教育関係団体6団体を対象にしたヒアリング調査を実施しました。

【実施概要】 令和7年（2025年）11月下旬～令和8年（2026年）1月中旬に、各団体が活動している文化センターにおいて、対面にて調査を実施しました。

### （1）活動内容について

#### 【主な意見】

- 団体活動を継続していく上での問題点は、役員のなり手がいないこと。
- パソコンを用いた事務作業が得意な会員が少ない。
- メンバーが高齢化しており、体験教室を開いたり、他団体と連携したりして何らかの活動をすることは非常に難しい。どう活動を継続していくのか難しい段階にきている。

### （2）連携、地域との交流について

#### 【主な意見】

- 地域にある歴史や資源をタカラとして取り上げる活動をしており、小学校、町会、観光協会等と連携して活動を進めている。
- 日頃の活動を発表する場に参加するだけではなく、そこに来ていただいた方々と交流したり、つながりを新たに築いたりしていくことが非常に大切。発表する側が満足できて、それを見に来ていただいた方々にも満足してもらえるような関係性づくりができると良い。
- これまで文化センターとは関わりがなかった若い方々に、文化センターを知っていただき、センターでの活動に興味を持っていただき、団体活動に参加していただくことで、地域で文化センターやそこで活動する団体を支える方々を底上げしていきたい。
- 文化センターまつりの際には、様々な地域の方をお呼びしてもっと盛り上げていきたいという想いがある。ただ、そうした交渉やコーディネートをする体力・気力がない。そういうコーディネートをしていただける方がいらっしやるとありがたい。

### （3）区の生涯学習施策について

#### 【主な意見】

- 皆で作業しながら、楽しく会話をしたり、健康相談をしたり。生涯にわたる居場所というか、仲間づくりが大切だと思う。
- 「生涯学習」というのは媒体だと思います。そういう媒体があって仲間が集まるということは、本当に良いこと。
- 区には、宣伝、広報をもっと頑張っていただきたい。文化センターに普段関わりがない人にも情報を伝えていけると良い。区報だけでなく、違う媒体でも伝えてもらい、多くの皆さんに知っていただけると良い。
- これからも活動を維持していくために、できることはやっていきたい。どなたかに主導・サポートしていただきながら、活動を維持するための取り組みができると良い。

生涯学習に関する基礎調査報告書（概要版）令和8年2月発行  
発行／大田区地域未来創造部地域力推進課  
〒144-8621 東京都大田区蒲田5-13-14  
電話：03-5744-1443（直通）

